



第25回 地域療育講習会

医療社会事業担当 平岩 千映子

平成30年8月2日(木)、多摩総合医療センターフォレストにて、第25回地域療育講習会を開催しました。テーマは、「重症心身障害児・者の栄養管理について～体重コントロールをどうするか～」でした。

この講習会は、平成18年から年2回、地域で重症心身障害児(者)の療育にかかわっている関係者を対象に、地域療育支援事業の一環として、行われているものです。

田沼小児科部長の「栄養管理の基礎知識」では、重症心身障害児(者)の栄養管理として、「腸が働いているなら、腸を使おう」という原則があること、このことを指標として、ご本人の状況により、様々な栄養管理方法の選択肢があることが述べられました。摂取エネルギー必要量の算出と栄養管理の指標としてのBMI等の計測は、体重管理に大きな比重を占めます。重症心身障害児(者)の場合、摂取エネルギー量の算出には、本人の臨床的特徴が大きく反映されるとの内容でした。また、BMIは12～16位を目標にするとよいとのことでした。

小山栄養科長の「栄養管理と経腸栄養」では、各栄養素(タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル)についての特徴の説明があり、その中で、タンパク質、脂質、炭水化物についての摂取バランスは約13～20%、20～30%、50～60%が適当とのことでした。また、経腸栄養で不足しがちな栄養素についてや、経腸栄養剤、濃厚流動食、栄養補助食品の種類についても実際の写真を交えて説明がありました。

摂食嚥下障害看護認定看護師である谷野看護師の「府中療育センターにおけるNST活動の実際」では、まずはじめに、NSTの活動目的が「栄養管理が必要な利用者に、適切な栄養投与方法を検討し、栄養状態の改善を支援すること」であると述べ、具体的な活動内容の説明においては、実際の診療録や回診の様子を資料として示し、聴講者の関心を惹き付けました。

また、今回の講習会参加者は95名、質疑応答では11件の質問があり、興味関心の高さがうかがわれました。

次回の地域療育講習会への参加も、お待ちしております。



誕生会とサマーコンサート

3-1病棟 早田 智恵

8月13日(月)に都立日野台高校コーラス部の皆さんにも参加していただき、3-1病棟にて「誕生会とサマーコンサート」を開催しました。当日は1名の利用者が誕生日でした。コンサートでは、総勢29名の爽やかなコーラス部員が制服で登場すると、利用者はもちろん職員も視線が釘付けになりました。

童謡「汽車」から始まったコンサートは驚きの連続で、人の声だけで音色を奏でることの素晴らしさと混声合唱の魅力であるハーモニーの美しさを十分に感じました。部員の皆さんが利用者の隣で、手拍子を鳴らし衣装を纏う演出に会場は大盛り上がりとなりました。コンサートの途中で雨が降りはじめ雷鳴が轟きましたが、天気をもものもしないコーラス部員のパワーに元気をいただくことができました。



サマーフェスティバル

2-B病棟 丸山 邦子



2-B病棟では、7月30日(月)にサマーフェスティバルを開催しました。当日は、8名から成る「HA・lau・N・Lei・0・ka・lehua」(ハー・ラウ・ナー・レイ・オ・カ・レフア)の皆さんを招待しフラダンス鑑賞会を行いました。

利用者の膝の上にハイビスカスの折り紙を装飾したスカートを置くとともに、病棟内をハイビスカスで飾り、病棟全体が

ハワイアンムードになりました。そして、ゆったりとしたハワイアンメロディーにのせたフラダンスをみせていただきました。アンコールでは、小柳ミ子の「瀬戸の花嫁」に合わせて踊りを披露してもらいました。メロディーにあわせ手拍子でリズムをとる利用者や歌を口ずさむ職員もいました。利用者は穏やかな表情で楽しんでおり、とても和やかな一時を過ごすことができました。



サマーコンサート

4-2病棟 瀬野 由佳

4-2病棟では、8月3日(金)にサマーコンサートを開催しました。今年は、10名から成る「若松リコーダー隊」の方々にリコーダー演奏をしていただきました。当日は、2名の利用者の誕生日会も兼ねていました。そのため、コンサートのスタートに「ハッピーバースデー」の演奏と歌でお祝いするところから始まりました。その後は、「ドラえもんの歌」、「オーバーザレインボー」、「オーシャンゼリゼ」、「ミッキーマウスマーチ」、「ピクニック」など、みんなが聞き慣れている曲やテンポの良い曲が続きました。

様々な種類のリコーダーの紹介やダンスのパフォーマンスなど趣向を凝らしたステージに、利用者や職員も鈴やタンバリン、マラカスなどの楽器を手に持ち、楽しい気分になって盛り上がりました。また演奏して欲しいと思うほど素敵なコンサートでした。



バスハイク

3-2病棟 柴 江理子

3-2病棟では、7月27日(金)に三鷹市の「星と森と絵本の家」へ半日バスハイクに行きました。晴天に恵まれたこともあり、片道30分程度の車中では車窓の景色を眺めながらバスハイクを楽しむ利用者の笑顔がみられました。

「星と森と絵本の家」に到着した後は、森のような木立の間を涼しい風が通り抜ける中、絵本の家までの道のりをのんびりと楽しみながら散歩しました。古民家を利用した館内は、レトロな雰囲気が漂う畳敷きの和室などが数部屋ありました。それぞれの部屋には様々な種類の絵本が用意されていました。今回は、たくさんある絵本の中から『そらめくんのベッド』や『あおバスくん』、『くすのきだんちのコンサート』などの絵本を選びゆっくり読書を楽しみました。





夏の企画

指導科 堀向 貴則

7月25日(水)、7月26日(木)に指導科行事「夏の企画」が行われました。

今年のテーマは「登山!」、あじさい館を2つに仕切って、入口側を「山の中腹のレジャー場」、奥側を「山頂」と設定しました。利用者の皆さんは、あじさい館の玄関口受付で、「府中療育センター開設50周年記念のうちわ」を受け取ってもらい、山の案内図をもとにゲームや登山の見どころなどの説明を受けてスタートしました。最初にあじさい山の名所「白糸の滝」を見物し、次に「山の動物(昆虫)取りのゲーム」を楽しみました。ゲットした「動物カード」は、「動物保護センター」に行



き、「当りに指定されている動物」かどうか係の職員に確認してもらい、当たりなら、記念マスコットをゲットできるというゲームでした。当たりを選択した利用者は歓声をあげ、嬉しそうな表情をみせ盛り上がっていました。「動物保護センター」では、虫や動物の鳴き声が再生される装置があり、再生して楽しんでもらいました。ゲーム場の次は、本物の「カブトムシ」、「クワガタ」、「タマムシ」などを展示し、実際に利用者の方々に触れてもらいました。利用者の中には記念撮影をする方もおり大好評でした。

山頂では、七色に光る滝を模したバブルチューブが光り、スクリーンには山の映像を投影し、さらに「ムササビくん」を利用者の操作で、画面の中に登場させ、実際に自分が現地で見ているような、よりリアルな視点で映像を楽しんでもらえるように工夫しました。他にも鳥の鳴き声をする道具を設置し、鳴らしてもらうことで音でも楽しんでもらいました。山頂出口では、「登頂認定証」のシールを配布し、みなさん思い思いの場所に貼ることで、登山の記念にしてもらいました。外には、「芽多瀬神社」が鎮座し、みなさん参拝して浄財を投げ入れたりして、楽しんでいました。また、水を注ぐと涼しい音がするバケツも用意し、涼も感じてもらいました。通所ロビーに設置した「峠の茶屋」では、ノンアルコールビールや数種類のソフトドリンク、一口水ようかんを用意し、好評でした。店頭では、「冷えタオル」のサービスや「氷柱花」を飾り、観たり触ったりして涼を感じることで楽しんでもらいました。また、今回の夏の企画では、「センター開設50周年記念」をPRするコーナーも設けました。テーマは、「センターの夏といえば、みなさんどんな思い出がありますか?」とし、メッセージカードを寄せてもらえるボードも作りました。2日間のイベント中には、6名のボランティアさんのご協力もいただき、みなさん楽しい夏のひと時を過ごしました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>